

定住作家相互の交流に現れる地域コミュニティ活性化に関する研究

宮崎大学工学部 学生会員○竹田浩二 正会員 吉武哲信

1. はじめに

近年、地域の活性化を道路などの基盤施設整備だけでなく、コミュニティの活性化を併せて図る必要性への認識が高まっている¹⁾。また、コミュニティ活性化においては住民が新たな価値観や行動様式を獲得していくことが必要であり、これには外部参加者との交流が有効であることが知られている。

著者らは、外部参加者の中でも、新規定住の作家に着目し、コミュニティの活性化を 1)まちづくりへの意識・行動の変化、2)交流の深化の2点から、作家と住民の交流に関して、それぞれの変化を分析した²⁾³⁾。しかし、作家相互の交流とコミュニティ活性化の関係は、未だ明らかでない。そこで本研究では、作家相互の交流を分析し、作家相互の交流と、コミュニティ活性化の関係について考察するものである。

2. 分析の枠組み

本研究は、コミュニティ内でのマイノリティとしての新規定住作家の相互の交流、および作家の意識・行動の変化を把握するものである。そのため、a)作家がコミュニティ内で多数者でない、b)工芸などの有名産地ではないことの2条件を設定する。また、交流が確保される前提としてc)既存のコミュニティ内に居住していることを条件とした。

次に、作家に対する、交流とまちづくりへの意識・行動に関するアンケート調査項目を表-1に示す。

分析に関しては、設問ごとに単純集計を行うと共に、回答カテゴリー間の関連を把握するために数値化3類のカテゴリースコアにもとづいてクラスター分析を適用することとする。

3. 調査と分析の結果

(1) アンケートの実施

H8の綾町、H9の志摩町の調査に加え、H11~12年に、福岡県(前原市)、宮崎県及び大分県内の作家に対して調査を行った。表-2に有効回答をよせた27名の属性を整理する。活動分野は陶芸が最も多く13名で、性別は男性がほとんどである。また年齢も40代、

表-1 アンケート調査項目

| 項目 | | 作家 |
|----------|---------------|--|
| 個人属性 | 年齢・性別 | ・年齢・性別 |
| | 活動分野・出身地 | ・活動分野・出身地 |
| 交流の場 | | ・交流の場(日常生活,自治会,地域の祭り・イベント,作家主催のイベント,その他) |
| 意識・行動の変化 | 役割の認識 | ・まちづくりへの関心 ・まちづくりでの自己の役割認識 |
| | 役割の実践 | ・まちづくり活動 |
| 交流の深化 | 自我の防衛機制の緩和 | ・交流の積極性・交流の不安の有無 ・相手への指摘の経験の有無 |
| | コンベンションリズムの緩和 | ・お互いの共通点の発見 ・相手からの指摘の経験 |

表-2 作家の個人属性

| 属性 | カテゴリー名 | 綾町 | 志摩町 | 宮崎県(綾以外) | 前原市 | 大分県 | 合計 | |
|------|--------|-----|-----|----------|-----|-----|----|----|
| 活動分野 | 陶芸 | 3 | 2 | 4 | 2 | 2 | 13 | |
| | 染織 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 2 | |
| | 木工 | 5 | 0 | 1 | 0 | 1 | 7 | |
| | その他 | 2 | 1 | 0 | 0 | 2 | 5 | |
| 性別 | 男 | 11 | 3 | 5 | 2 | 4 | 25 | |
| | 女 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 2 | |
| 年齢 | 20代 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | |
| | 30代 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 2 | |
| | 40代 | 3 | 0 | 4 | 1 | 0 | 8 | |
| | 50代 | 5 | 2 | 1 | 1 | 5 | 14 | |
| | 60代 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 2 | |
| 出身地 | 作家 | 同地域 | 2 | 1 | 3 | 1 | 4 | 11 |
| | | 県内 | 6 | 2 | 1 | 0 | 0 | 9 |
| | | 県外 | 3 | 0 | 1 | 1 | 2 | 7 |
| | 配偶者 | 同地域 | 2 | 0 | 0 | 0 | 1 | 3 |
| | | 県内 | 3 | 0 | 3 | 2 | 1 | 9 |
| | | 県外 | 3 | 3 | 1 | 0 | 3 | 10 |
| 合計 | | 11 | 3 | 5 | 2 | 6 | 27 | |

50代が多い。しかし、独立工房を持つ作家の属性としては偏った標本ではないだろう。また、対象地域出身者が11名と多いが、対象地域外での居住経験がない作家は除外したため、外部参加者とみなせよう。

(2) コミュニティでの役割の認識と実践

作家のコミュニティでの役割の認識と実践、およびその変化を把握する。図-1に、まちづくり活動への関心と活動への参加、および自己の役割の認識に関し、転入当初から現在の変化について示す。図-1より、まちづくりへの関心において積極的な回答をした作家は20名であるが、実際に活動している作家は14名と、両者には差が存在する。また、役割認識において

も 22 名の創作家が積極的な回答をしている。意識と行動は必ずしも直結していないが、役割認識において積極的な回答の内 17 名が上位変化（積極的になった）であることは注目すべきであろう。

(3) 創作家相互の交流の深化

交流の深化に関する質問は、Johari の窓の理論によるもので、自我の防衛機制の緩和軸（a 軸、質問数 3）、コンベンショナリズムの緩和軸（b 軸、質問数 2）で構成される。各軸で幾つの質問に対し積極化したかというカテゴリーに変換し集計したものを図-2 に示す。

2 つ以上の質問に対し積極化する場合は交流が深化したと考え、a 軸での緩和を示した 8 人、b 軸での緩和を示した 4 人がそれに相当する。逆に、「0 項目反応」に着目すると、b 軸での緩和に関するものが 10 名と多く、創作家は、他の創作家からの指摘による自己発見をし難い状況を表わしていると考えられる。

(4) 交流とコミュニティ活性化の関係

創作家相互の交流とコミュニティ活性化の関係を把握するため、回答カテゴリー間の類似性を調べる。数量化 3 類で得られる 5 軸（累積寄与率 60.4%）までのカテゴリースコアを用いてクラスター分析を適用した（表-3）。カテゴリーは大きく 7 つ（A1-A7）に区分できる。グループ A3 は、創作家との交流に対して消極的な創作家は、まちづくりへの意識や行動も消極的であることを示す。さらに創作家相互の交流の場を見ると、日常生活での交流は、創作家のコンベンショナリズムの緩和に、創作家主催のイベントでの交流は、まちづくり活動や役割認識の積極化に関連していると言える。また、地域の祭り・イベントでの交流を選択した創作家は、転入当初から一貫して、まちづくりへの関心や活動が積極的であると言える。すなわち、積極性を要する日常生活や、祭り・イベント（地域、創作家主催）で他の創作家と交流をしている創作家は、まちづくりへの意識や行動が積極的、あるいは積極的に変化（交流も深化）する傾向があると言える。

4. おわりに

本研究の結果を以下にまとめる。創作家相互の交流において、1) 日常生活での交流は、創作家のコンベンショナリズムの緩和に関連している。2) 祭り・イベント（地域、創作家主催）での交流は、創作家のまちづくりへの意識や行動の積極化に関連している。

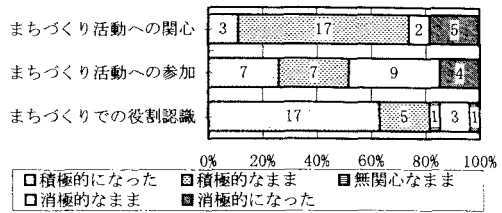


図-1 コミュニティでの役割の認識と実践

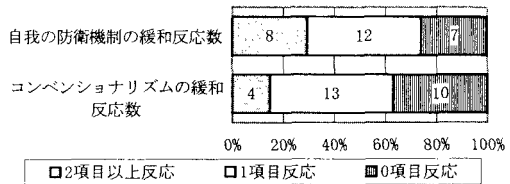


図-2 交流の深化

表-3 創作家の回答にもとづくカテゴリー分類

| | |
|------|--|
| <A1> | ・まちづくりへの役割認識(下位変化) |
| <A2> | ・まちづくりへの役割認識(変化なし△) |
| <A3> | ・交流の場(職場)・まちづくりへの関心(下位変化,変化なし×)・まちづくり活動(変化なし×)・まちづくりへの役割認識(変化なし×)・自我の防衛機制の緩和(0 項目反応) |
| <A4> | ・交流の場(その他)・まちづくりへの関心(上位変化)・自我の防衛機制の緩和(2 項目以上反応) |
| <A5> | ・交流の場(創作家主催のイベント)・まちづくり活動(上位変化)・まちづくりへの役割認識(上位変化)・コンベンショナリズムの緩和(0 項目反応, 1 項目反応) |
| <A6> | ・交流の場(地域の祭り・イベント)・まちづくりへの関心(変化なし○)・まちづくり活動(変化なし○)・自我の防衛機制の緩和(1 項目反応) |
| <A7> | ・交流の場(日常生活)・まちづくり活動(下位変化)・まちづくりへの役割認識(変化なし○)・コンベンショナリズムの緩和(2 項目反応) |

注) 上位・下位変化：転入時と比べて現在は「積極的」・「消極的」変化なし○・△・×：転入時も現在は「積極的」・「無関心」・「消極的」

以上より、日常生活や祭り・イベント（地域、創作家主催）での交流を促進させることにより、創作家相互の交流が、コミュニティの活性化にプラスの影響を与える可能性を示唆できた。

参考文献

- 1) 岡田憲夫、杉万俊夫：過疎地域の活性化に関する研究パースペクティブとその分析アプローチ・コミュニティ計画学へ向けて、土木学会論文集, No.562/IV-35, pp.15-25, 1997.
- 2) K.Kohmura, T.Yoshitake: A Study on the Role of Communication between Residents and Local Artists in Rural Community Development, Proceeding of international Symposium on City planning 1998, pp.495-504, 1998.
- 3) 清池圭一郎、軍神宏充、吉武哲信：定住創作家の地域活性化に関する意識・行動の変化に関する研究、土木計画学研究・講演集, No.23(1), pp.471-474, 2000.